

認定NPO法人 日本ミャンマー豊友会

JAPAN & MYANMAR ASPIRATION HOYU ASSOCIATE



平成30年度（第10期）事業報告書

令和元年度（第11期）事業計画書（案）

令和元年5月25日
第10回通常社員総会



設立趣旨書

この法人は、「日本とミャンマーの子供たちの未来のために」を活動理念に掲げ、子供たちが共生共存できる、豊かで平和な世界の実現を目指し設立されました。

現在の日本の子供たちが、夢と希望をなくし、閉鎖状況の中で個人主義に走る現状を憂い、ミャンマーの子供たちを通して、心の豊かさとは何かを考えてゆきます。またミャンマーの子供たちには、勤勉に努力して技術や心を磨いてゆく日本人の古来のものの考え方を伝えてゆきます。両者の交流を通じて、人間ひとりひとりの幸せを大切に考えて行動できる、品性豊かな国際人創りを支援してゆきます。

令和元年5月25日

認定NPO法人 日本ミャンマー豊友会

設立代表者 近藤 秀二



平成30年度事業を終わるにあたって

先期も3月のスタディツアーをもって無事終了しました。

10期からは所轄が財務省から愛知県に移りました。厳しいチェックを受け、認定法人としての許可を再度取得することが出来ました。

また日本国内ではNPOではありますが、現地ミャンマーではNGOのJAMAHAです。現地政府から英語バージョンでの会計報告を求められておりますので、水城会計事務所さんの御協力を経て提出させていただきました。



平成30年度事業活動報告

1. 子供の健全育成をはかる事業

① 保育園寄贈支援

- a) 2018年 7月 シャン州ロイモン村保育園 1棟
対象園児数 163人 建設費用 10,581,000kyat
ドナー 株式会社モデスティ 毛受史江社長
- b) 2018年11月 シャン州ピンダング村保育園 1棟
対象園児数 100人 建設費用 9,328,000kyat
ドナー 株式会社 グラウンドキャリー 和田政実会長、
泊青果 株式会社 泊社長
- c) 2019年 3月 シャン州クワンコン村保育園 1棟
対象園児数 50人 建設費用 10,900,000kyat
ドナー SMBCボランティア基金

② 奨学金支援及びスタディツアー参加者への助成

- ① ドーピン孤児院へTシャツ400枚寄付
- ② トンテ孤児院 「あしながおじさん」型給付型奨学金支援 4,366,000kyat
文具3箱 一清堂さんご寄贈
- ③ 共通一次試験（大学入学試験）のための塾費用
ウイッタカ尼僧院生徒 960,000Kyat,
ボウダティター尼僧学院生徒 3,370,000 Kyat,
孤児たちのための2級進級テストの試験代と交通費 111,000Kyat
- ④ スタディツアー参加者（18歳以下）助成 1名 3万円
- ⑤ 視覚障害者自立支援事業 9,107,500Kyat

現地ミャンマーにおける事業の方は、三つのPAOの村落に三つの保育園幼稚園建設を支援させていただきました。建設資材の購入金額の支援以外に、日本の教育ソフト紙芝居や楽器ピアノを皆様のご協力で寄付させていただいております。日本の紙芝居を「舞台」とともにビルマ語に翻訳し、オルガンの代わりにピアノを、日本との交流のシンボルとして鯉のぼりを園舎の前に泳がせています。今年度からの小学校の教育要領の変更（日本の文部省がJICAの協力で6年制と主要四科目以外の三教科も追加）に伴い、小中学校の校庭内に、プレスクールとしての幼稚園の建設、発足が始まりました。その規格が従来の保育所よりも大きくなり四〇坪強となりつつありますので、建設費は大幅に増加してまいりましたが、最大材料費の85%までの支援という点は崩しておりませんので、村の建設委員会側は不足分を調達しています。文部省の指導どおりに造れば、開園後の保母さんたちの給与の大部分が補助されるということで、ランニングコストが助かるからです。今期でシャン州のPAO族の村に22, 3カ所（他地区に4カ所）「無認可保育所」を作ってきましたので、タウンジーのPAOの事務所に保母さんを集めて運営上の諸問題やノウハウの共有を試みる研修会を開催してゆきたいと考えております。

孤児院の職業訓練室はトンテの孤児院で洋裁教室を試み、ドーピンの孤児院でパソコン教室の開催をしておりました。しかしトンテでは日本人の先生の熱心さにもかかわらず、一週間の試行期間以降は生徒さんが集まらず、ドーピンは講師がオーストラリアへの移住をきめ、中断しております。ミシンは30台、パソコンも20台近く揃っているのですが、今期は再開にこぎつけたいと思っております。そのため3月には両孤児院を訪れ、運営の中心であるお坊さんとお話し合いをしてきました。

トンテはミシンを掃除し、近くの経験者に助けをもらい、自分たちの新学期の学校の制服を製作するようです。ドーピンの方もパソコンの先生を探すことから始め、パソコンの機器の状態のチェックに入ります。

返済型の奨学金制度は5年にわたって積み上げた300万円の基金を中心に回っておりますが、今期から給付型も並行して開始いたしました。いわゆる「あしながおじさん」タイプです。

トンテの通信大学生11人186万円（1年間3万円、4年制12万円：1人）の給付となります。又、今期の新入学生は5人の報告が来ております。したがってトンテだけで先期と合わせて16人予算額192万円となります。先般の豊友会の皆様には36万円のご浄財をご寄附いただきました。

先期はフォーマットも決まっていなかったため、ウイッタカ尼僧院生徒の大学受験のための10万円、ボウダティター尼僧学院の生徒さんの大学受験用の塾費用として約26万円を支出いたしました。そのほかに孤児院の生徒の、日本語2級進級テストの試験代と交通費を支給いたしました。今後はできるだけ写真や将来の希望を観ながら会員の皆様に決めていただき大学の学費をもっぱらとし、4年12万円のご寄付をお願いしてまいりたいと存じます。ただし孤児院の生徒の、日本語2級進級テスト（N2）の試験代と交通費は制度化してゆくつもりです。2級までは無料で教えてくださる日本語学校があるので、会員の皆様の採用の為にも有用ではないかと考える次第です。

2. インレー湖畔環境保全事業

インレー湖東岸Maing Thauk村にてゴミ焼却炉稼働率向上の指導及び子供たちへのゴミ分別教育の実施

インレイ湖畔で展開していたゴミ拾い活動の支援から始まった環境美化活動、教育は40か所のゴミ箱の設置から、りそな財団の支援をいただきながらの焼却炉設置それに伴うゴミの分別収集と水俣、阿賀野川流域の公害発生に至る過程の反省、資料等の提供を続けてまいりましたが、分別作業の混乱が尾を引いており、再構築が必要な状況です。3月にチェックしたところゴミ箱自体も見当たらず、焼却機の運転もボランティアの方が子供に手伝わせながら週一程度の野焼きをしているような状態で、重油代や若干の手当等を予算化する必要があるように感じ

ています。

3. 国際交流支援事業

2019年3月、視覚障害者自立支援事業としてマッサージ全国セミナーの開催

1. ヤンゴンセミナー：国立チーミンダイン盲学校 3階会場 3/25～3/26 40名

2. ザガインセミナー：国立ザガイン盲学校 講堂と実技指導室3/28～3/29 20名

セミナーの特別講演として「マッサージ師のマナーについて」という内容で約1時間半行いました。

講演後の質疑応答では多くに質問が出て、ミャンマーの皆さんの向上心と熱意を感じる場面となりました。又参加者の臨床経験の違いを考え、2チームに分けて、技術、知識の研修を行いました。ここでも旺盛な好奇心とポジティブな精神で活発な情報交換の時間となりました。



平成30年度総会/理事会開催報告

30年度 総会・理事会の開催 議事録

	日程	参加人数	場所	目的	議案
1	2018/5/26		邦和セミナー	総会	1. 29年度事業報告 承認
					2. 30年度事業計画案 承認
					3. 特定資産(積立)について
					4. 理事変更
					5. 定款変更
2	2018/12/8	7	名鉄グランドホテル18階 喫茶室	理事会	1. 第29回、30回STの報告
					2. 公益社団法人日本フィランソロピー協会からの進捗報告
					3. 「あしながおじさん」の活動報告



平成30年度会計報告

特定非営利活動に係る事業会計貸借対照表

特定非営利活動法人 日本ミャンマー豊友会

[税込] (単位：円)

平成31年3月31日 現在

資 産 の 部		負 債・正 味 財 産 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
【流動資産】		【流動負債】	
(現金・預金)		未払 費用	146,600
現 金	52,670	流動負債 計	146,600
普通 預金	8,222,561	負債の部合計	146,600
現金・預金 計	8,275,231	正 味 財 産 の 部	
流動資産合計	8,275,231	【正味財産】	
【固定資産】		正味 財産	14,283,431
特定資産	6,154,800	(うち当期正味財産増加額)	2,611,443
固定資産合計	6,154,800	正味財産 計	14,283,431
		正味財産の部合計	14,283,431
資産の部合計	14,430,031	負債・正味財産の部合計	14,430,031

特定非営利活動に係る事業会計財産目録

特定非営利活動法人 日本ミャンマー豊友会

[税込] (単位：円)

平成31年 3月31日 現在

《資産の部》

【流動資産】

(現金・預金)

現金

52,670

現地 (円)

0

現地 (チャット円換算額)

22583 チャット

1,642

本部小口現金 (円)

43,936

本部小口現金2 (円)

0

本部小口現金 (ドル円換算額)

64 ドル

7,092

普通 預金

8,222,561

いちい信金

1,000

ゆうちょ銀行

258,862

郵便局 振替口座

1,509,858

三菱東京UFJ銀行 中村公園前支

6,452,841

現金・預金 計

8,275,231

流動資産合計

8,275,231

【固定資産】

特定 資産

6,154,800

郵便局 振替口座

6,154,800

固定資産合計

6,154,800

資産の部 合計

14,430,031

《負債の部》

【流動負債】

未払 費用

146,600

一清堂 学用品、サッカーボール等

36,600

竹花氏 通訳費、人件費

110,000

流動負債 合計

146,600

負債の部 合計

146,600

正味財産

14,283,431

特定非営利活動に係る事業会計収支計算書

特定非営利活動法人 日本ミャンマー豊友会

[税込] (単位:円)

自平成30年4月1日 至平成31年3月31日

《経常収支の部》

[経常収支の部]		
【経常収入】		
正会員会費収入	955,000	
賛助会員会費収入	15,000	
寄付金収入	5,486,666	
受取利息収入	45	
経常収入 計		6,456,711
【事業費】		
子供達の健全育成支援事業	2,854,812	
国際協力支援事業	750,000	
事業費 計		3,604,812
【管理費】		
広告宣伝費	208,560	
会議費	4,410	
通信費	1,060	
事務費	40,893	
雑費	11,777	
管理費 計		266,700
経常支出計		3,871,512
経常収支差額		2,585,199
[その他資金収支の部]		
【その他資金収入】		
為替差益	26,244	
その他資金収入 計		26,244
【その他資金支出】		
その他資金支出 計		0
当期収支差額		2,611,443
前期繰越収支差額		11,671,988
次期繰越収支差額		14,283,431

財務諸表の注記

(注) 用途等が誓約された寄付等の内訳

	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	備考
国際協力のための事業	760,799	700,000	750,000	710,799	
子供たちの健全育成支援事業	1,194,589	2,670,000	2,851,899	1,012,690	保育園等のための資金
子供たちの健全育成支援事業	5,154,800	1,000,000	0	6,154,800	特定資産
環境保全を図る事業	395,391	0	0	395,391	
合計	7,505,579	4,370,000	3,601,899	8,273,680	



今年度方針

NLDに政権移行後もロヒンギャ問題で、国際世論を揺らしているミャンマーですが、私どもは政権に関係なく、できるだけ直接支援を心がけております。「日本とミャンマーの子供たちの未来の為に」というのが認定NPO法人日本ミャンマー豊友会の理念です。特に教育分野に支援対象を絞り込んで、任意団体から認定法人になるまでの12年間続けて参りました(今期はNPO設立後10期目にあたります)。第2期10年の出発に向けて活動の質的向上を目指して会員増強と総力結集で新年度を船出してゆきたいと思っております。最近7年間は主にシャン州の少数民族パオの部落へ保育園幼稚園を寄贈して参りました。だんだん村民総出で賑やかに開園式が行われるようになり、スタディーツアーの参加者は感動しております。しかしもっと貧しい村、必要としている地方があるのではないかと考えます。次項に今年度の3本柱の基本方針を列挙いたします。



令和元年度 事業活動 重点指針

従来の活動の3本の柱

1. 幼稚園園舎寄贈活動

2018年の新入生からミャンマーの教育制度が新しくなり、主要4科目+音楽体育図工が加わりました。JICAを通して日本の文部省の日本型教育制度が導入されたわけですが、したがって幼稚園もプレスクールとして位置づけられ、40坪ほどの大型化が一般的になりつつあります。さいわい今期も、保育園、幼稚園の寄贈がみなさんに大変わかりやすく、村民にたいそう喜ばれていることがお分かりになり、支援者からのご寄贈が今期もすでに2件が決まっています。一つはPAO族のPIN MOON村、もう一つをインパールの作戦沿いの村にと考えていますが、まだ具体的になっていませんが、ドナーはおられます。

2. 孤児達の就職支援活動

実習生制度、留学生制度が曲がり角にきています。実習生制度は逃亡者の問題、留学生制度は隠れ就業者で学校が制度をあえて曲げているという観点から、留学ヴィザの交付率は東京入管局で昨年末期は20%以下になったと言われております。

孤児院の孤児の就職支援として職業訓練室を従来のように展開していきたいと思っております。特定技能制度を使って来日を希望する孤児たち、少数民族の子供たちに、特に長いお休みの期間には日本語教育もを行なってゆきます。今期はドーピンのPC教室の再開や、ドリームトレイン、トンテの孤児院が中心となりそうです。併せて日系の会社等と接触を保ちながら、雇用をお願いしてゆく活動の展開を志します。

3. 奨学金貸し付け及び給付型奨学金

給付型に転換するに際し、財源が問題であることは一目瞭然です。ひとりの支給者と一人の受給者をマッチングさせ、「あしながおじさん」として末永く支援してくださる仕組みにしてゆきたいと存じます。その一方財源確保のための収益事業を見つけ出してゆかねばなりません。現在検討中はカシューナッツ、荳胡麻、お茶等です。環境破壊防止や地元雇用などの効果効用も併せ持つことのできるプロジェクトができればと考えております。

あらまは6の新しい活動欄に記載しています。

4. 居住区の環境美化活動支援

ゴミ拾い活動の支援から始まったマインタック村の環境美化活動については、皆様もご存知のようにゴミ箱の設置から小型の焼成機の寄贈、試運転にいたりしました。ただゴミの分別収集と言う点において村人の方々は慣れないために、様々な問題が発生し現在で仕切り直しであります。できれば村落共同体のごみ処理のモデルとして実稼動にこぎつけていきたいものだと思っております。ゴミの仕分けで問題になっている問題をもう一度整理し、予算化してゆきます。

また湖畔の周辺の間山が禿山化し、土砂の流入が恒常化しております。そこで木を植える活動を今期から始めてゆく所存です。

5. 視覚障害者自立支援

視覚障害者の全国セミナー（ヤンゴン、ザガイン）を通して、視覚障害者が幅広く質の高い医療マッサージを習得することにより、彼らが高い治療効果を提供することと合わせてマッサージ師としてのマナーを身に着けることで視覚障害者の自立度のアップを更に社会に表現できることを目指しています。

今年度のセミナーにはMyanmarTV4よりテレビ取材を受け、ミャンマー福祉省及び皆さんの関心の高さをうかがうことが出来ました。

6. 新しい活動

1. 就学困難な子どもたちを支援する給付型奨学金制度と奨学金基金設立

① 趣 旨

経済的に困難な状況にある低所得の子どもたちに対して、安心して学ぶことができるよう費用の一部を支援する給付型奨学金制度を構築し、貧しいが能力があり向上心が高い子どもたちの進学、海外留学等を後押しすることを目的とします。

② 資格要件、対象者

孤児院や、少数民族の貧しい村で生活する子どもたちを対象とし、経済的に進学あるいは海外留学が困難な状況にある学生。

日本語能力を身に着けるとともに将来的にミャンマーにおける日系法人あるいは日本における法人で働く意欲があること また、対象者は、孤児院や村落の組合が選定し、JAMAHが決定する。

○分類

- ①進学（高校・大学）
- ②海外留学（留学・技能研修生）いずれも対象とする。
- ③職業訓練所訓練生
- ④セーダン試験の準備のために塾に通う経費および塾代
- ⑤日本語学習者の塾経費

③ 奨学金の種類

返済義務のない給付型

本人の自立支援を前提として、支給時期は入学時あるいは留学時とする。

④ 基金設立

①目的

上記奨学金制度を運営するために、必要金額基金を設立する。また、日本からの寄付を原資とし、対象者に必要な額を基金より拠出する。

②運営

基金の運営は、JAMAHが実施し、対象者への拠出は、所属団体経由で行う。

③原資（寄付）

当初は基金より拠出するが、軌道に乗り次第、寄付者の好意が図りやすいように、相手を特定する奨学金とする。（里親制度参考）

特定の支給者に特定の個人が「あしながおじさん」となる。持続的な交流が続くことが望ましい。

④ 拠出金額

分類によって、あるいは対象者によって事情が異なるため、今後JAMAHとミャンマー側の団体が協議の上決定する。

⑤ 時期

すでに実施はしているが、2019年夏ごろから本格的に開始。

⑤ その他

上記分類に当てはまらないが、特別に認めたものについては基金から就職支度金として拠出することができるように検討する。

就職支度金の内容は、就職のための交通費、就職に必要な生活物品の購入費等とする。

2、組織メンバーの強化

リピーターの皆さんに入会していただくと同時に、活動していただけるよう、担当別理事別委員会を構成し、組織的活動に入る。メンバーとしては学生さん、ご婦人に働きかけをしてゆく。

写真展や講演会を積極的に展開し、興味を持つ団体個人と接触してゆくこと。

魅力的なホームページとは何かを研究してゆくこと。

3、財政の問題

在ミャンマーの日本企業に寄付金をお願いすると同時に入会していただく。

ミャンマー進出を狙う企業さんに情報提供を積極的にするように活動する。

個別の案件をクラウドファンディングで実施してみる。事務局の活動費は年会費を使わせていただき、特定事業はスポンサーを積極的に探してゆく。

りそな財団やSMB Cのような団体が支援して下さったことを分析し、積極的にアプローチする。



令和元年度事業活動 収支計画

収入の部

前年度繰越金	1428万円
会費収入	120万円
寄付金	480万円
公的扶助	100万円
小計	2128万円

支出の部

幼稚園建設支援金	200万円
給付型新奨学金基金	300万円
孤児院の職業訓練事業	200万円
視覚障害者の自立支援事業	100万円
環境美化活動支援金	20万円

雑費・予備費	30万円
次年度繰越金	1278万円
小計	2128万円



特定資産追加の件

上記予算以外に特定資産として 100万円



役員変更の件

副理事長大木光章退会に伴い、新しい副理事長を選出選出する。



主たる事務所変更の件

新しい主たる事務所

〒497-0004 愛知県あま市七宝町桂親田2027 (株式会社タケダ内)

TEL052-443-9907 FAX: 052-444-2227

従たる事務所は廃止とする。

ヤンゴン事務所

NGO代表 NI HTWE

No.35/A, Boe Yar Zar Street Kyakkone Yankin Township Yangon Myanmar